

地域に愛される蒸留所を 高橋酒造新事業展開に関する説明会

高橋酒造株式会社（合ノ原町）が、平成26年3月に廃校した田野小学校跡地（田野町）に同社のウイスキー蒸留所や地域交流施設を整備することを発表しました。県内の自然や歴史、風土を生かしながら、優秀な建築家・デザイナーと地域住民の協働で文化的資産として優れた建造物を生み出す「くまもとアトポリスプロジェクト」の一環として整備されます。

校舎部分は貯蔵庫やショップスペースなどに、体育館は見学ができる蒸留所に改修予定で、令和8年にオープン予定です。



完成イメージ。シンボルだった赤い屋根はそのまま生かす

きじコで簡単！ スマホ決済 きじコの使い方無料講習会

お金を地域内で回す仕組みづくりのために本市と民間団体で連携して取り組んでいるデジタル地域通貨「きじうまコイン」（きじコ）の使い方を学ぶ無料講習会を、1月27日に市役所で開催しました。市職員らが講師となり、きじコを使うのに必要なスマホアプリのダウンロード方法や決済の仕方などを説明。

参加者は「知り合いがきじコを使ってお得に買い物ができるようになっていたので自分も使えるようになりたいので参加した。これから使うのが楽しみ」と話しました。



市役所1階にあるチャージ機を使いアプリに入金する参加者

災害時に安心して過ごせるよう 災害時避難所運営総合管理業務に関する協定

暮らしの安全・安心を守るホームセキュリティ事業などを展開するALSOCK（総合警備保障株式会社）と本市は、災害時における避難所運営総合管理業務に関する協定を2月9日に結びました。災害発生時に避難所運営が長期化する場合、運営の円滑な実施と市民生活の安定を同社がサポートするもの。

大長聖人熊本支社長は「グループ全体で4万人ほどのスタッフがいて人員の拠出能力が強み。万が一のことがあれば皆さんのそばでサポートします」と話しました。



豪雨災害時に避難所運営を同社が受託したことが協定のきっかけ

地域の宝を火災から守れ 第69回文化財防火デー消火訓練

先人から受け継いだ文化財を守るため、文化財防火デー（1月26日）に合わせて1月28日に井ノ口町の井口八幡神社で消火訓練を行いました。神社管理者や地域住民など約30人が参加。神供所からの出火を想定し、火事を発見した管理者が「火事だ！」と叫びながら非常ベルを作動。消火栓から放水し初期消火を行い、その後駆け付けた消防署職員や消防団員が消火活動に当たりました。消火訓練後には、消防署職員の指導の下、消火器の取り扱いやバケツリレー訓練が行われました。



3年ぶりの開催となった消火訓練の様子

思い出詰まった2年間に感謝 人吉復興コンテナマルシェ閉店セレモニー

令和2年7月豪雨で被災した事業者の復興支援と、まちなかのにぎわい創出のため、人吉商工会議所が令和3年1月に開設した人吉復興コンテナマルシェが、1月31日に閉店しました。1月29日には閉店セレモニーを開催。開設当初から入居する居酒屋「勝よし」の田尻敏一さんは、「多くのお客さんに来ていただき、楽しく仕事ができた」と2年間の振り返りを行いました。

今後は改修工事を行い、4月ごろからは被災事業者も含めた事業者支援や創業支援の場として、貸し出される予定です。



開設期間中、同マルシェには11事業者が入居した

人吉球磨の春の風物詩始まる 人吉球磨のひなまつりオープニングイベント

人吉球磨の10市町村で構成する人吉球磨ひなまつり実行委員会主催の「人吉球磨のひなまつり」が始まりました。2月3日には、球磨郡球磨村の球泉洞でオープニングイベントを開催。各市町村のPRタイムや舞妓による振る舞い酒などで来場者を楽しませました。

3月末までの開催で、観光客に人吉球磨地域を周遊し、色とりどりのひなまつりを楽しんでもらうため、各市町村でイベントを開催したり、ひなまつりにちなんだ食事を提供したりします。



イベントの成功を願い鏡開きをする実行委員会の皆さん

地域の「架け橋」が復活！ 主要地方道人吉水俣線西瀬橋完成式

令和2年7月豪雨で橋の一部が流失した西瀬橋の新橋架け替え工事が完了し、2月19日に全面開通しました。同日、西瀬小と西瀬橋で行われた完成式では、テープカットや渡り初めがあり、地元住民と関係者らで橋の完成を喜びました。

3世代家族で渡り初めに参加した原憲一さんは、「私にとって西瀬橋は、モノとモノ、人と人をつなぐ大切な存在。橋の流出で川北と川南で分断されていた地域が、ようやく一つに戻れることがとてもうれしい」と安堵の表情を浮かべました。



球磨川で流失した10橋のうち、いち早く復旧工事が完了した

被災したトルコへ恩返し トルコへの災害支援物資出発式

市では、地震で大きな被害がでているトルコへの災害支援物資出発式を2月17日に行いました。令和2年7月豪雨時に、福岡県にあるトルコの織物販売店の店主から支援いただいたことがきっかけ。物資の内容は市に備蓄していた毛布やマスク、テントなどで、市と連携協定を結ぶ熊本県トラック協会人吉球磨支部の皆さんが中継地点の福岡県まで運搬。福岡県で仕分けされた後、トルコへ送られました。

松岡市長は、「大変な状況にあるトルコのため、市も可能な限り支援したい」と話しました。



2トントラックが物資を載せ市役所を出発した